

熊本市屎尿利用調査(第2報)

齋藤中也\*

SAITO, C. Utilization of Night-soil in Villages near  
Kumamoto City.

1. はしがき 前報において屎尿利用の概略を報告

\*九州農業試験場

した。本報においては、屎尿利用の実態を報告する。  
調査地は、熊本県飽託郡託麻村の一部(旧小山戸島

村)で、調査戸数は12戸である。

2. 調査結果概要 尿尿汲取運搬状況 運搬は四輪馬車により、月の汲取回数は大体一定して3回が普通である。しかし農繁期にはやや少く、農閑期に多い。

1回の運搬量は普通3.6石程度である。汲取地は、市の東端住宅地帯でその間の道路もよく、汲取時間共約6時間である。契約戸数は10~15戸程で、運んだ尿尿は全部宅地内の貯溜槽に入れ、野壺は全然ない。農家の受取る汲取料金は1回2~300円位だが、受取らない者、或は下駄、煙草等の現物を受取っている人もある。

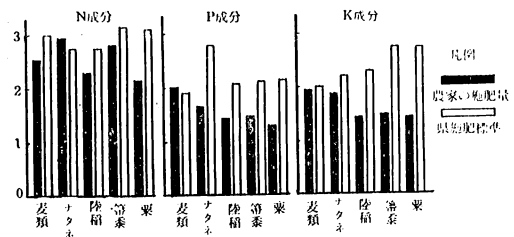
汲取農家の特殊性 尿尿利用と経営規模との関連は判然としなかつたが、労力とはかなり明瞭な関係があり、労力の多い農家程汲取量も多い。作付様式との関連は認められなかつた。当時の尿尿利用はあく迄主要作物で、蔬菜作重点等は全くなかつた。

尿尿施用作物、施肥量に多少の差はあるが殆んどの作物に施用する。中でも麦類が最も多く、陸稲、菜種、籾黍、粟の順となつている。農繁期にもかかわらず陸稲に多いのは、速効性N肥料であると同時に水肥として旱魃防止の生理的効果も大きいと考えられる。

尿尿施用の方法と施肥量 追肥が主であるが、例外として元肥施用も僅かながらある。追肥の回数は1回が多く麦類、陸稲等は2回施用している。追肥全体としては、金肥も併用するので2~3回になる。1回の追肥施用相当量は、水で稀釈して大体3石前後が多いが、運搬量、撒布労力等で必ずしも一定していない。次に堆肥、金肥、尿尿を併用した肥料総量をみると下

表の通りである。これに比較の便宜上県施肥標準を用いた。これによれば、大半が標準以下である。

作物別尿尿施肥量 (貫)



(農家の施肥量は12戸の平均値)

尿尿の金肥換算額 このような施肥構造ではあるが、年間の購入肥料額は少い農家で2万円、多い農家では9万円になつている。この外に尿尿の施肥量は多く、購入肥料に換算すると、硫酸では11~55俵、過石で3~10俵、塩加は2~7俵分に相当する。これを金額に見積れば、少いので1万円、多いのは5万円になる。この金額は購入肥料額の約5~6割になる。若し尿尿がなかつたならば補給しなければならぬので、この肥料分だけは節約しているといえる。非利用農家との違いはあまり明瞭なものを把握できなかつた。

3. むすび 以上尿尿利用の実態を報告したが、今後汲取農家数の動向は明瞭でない。終戦当時よりは減少しているが、その理由は多労、不衛生、市内交通の馬の危険、購入肥料の容易さ等である。しかし、水肥としての肥効、堆肥腐熟用、肥料節約、汲取料金の入手等で、多少は継続することと思う。